

國學院大學學術情報リポジトリ

圓佛教の海外布教現況：日本教区を中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 李, 和珍 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/00001813

圓佛教の海外布教現況 — 日本教区を中心に —

李 和珍

はじめに

圓佛教は少太山（ソテサン、朴重彬 1891～1943、大宗師と呼ばれる）によって 1916 年に全羅北道益山市で開教された。仏教系新宗教である圓佛教は現在、中央総部を中心に韓国内に 14 教区、500 余カ所の教堂、200 余カ所の関連機関がある¹。圓佛教は韓国では 4 大宗団として数えられており、その教徒数は文化体育観光部（宗務室）の統計結果（『2008 年韓国の宗教現況』）によると 148 万余人である。しかしこれは教団公式発表教徒数と考えていい。2008 年の圓佛教教団資料（『2008 年教団現況』²）によると 30 万人程度である。

圓佛教では圓紀という年号を使っており、1916 年を圓紀 1 年とする。開教 100 年になる 2015 年に向けて圓佛教では、「圓佛教 100 年記念聖業会³」を設立し、さまざまな事業を展開している。「圓 100 5 大指標」として①教化大仏供、②自身聖業奉賛、③世界主世教団、④大慈悲教団、⑤報恩大仏事があるが、その中で③世界主世教団は教団制度の革新、世界教化基盤構築を目指している。

本稿では、圓佛教 100 年記念聖業事業の一つでもある世界教化について焦点をあて、圓佛教の海外布教の歴史や現況について考察する。圓佛教の定期刊行物である『圓佛教新聞⁴』の記事と『国際教化総覧 92⁵』を中心にその流れを探ってみる。特に日本教区の教堂の歴史と現状については面談調査を通して得た情報を加えてまとめる。

1. 圓佛教の海外布教の歴史と現況

圓佛教は日本の植民地時代である 1916 年に開教し「仏法研究会」という名で活動を始めたが、植民地時代ということもあって、教団の活動は容易ではなかった。少太山大宗師の死後、大宗師の法通を継いだ鼎山宗師によって 1947 年に「圓佛教」を正式教名とし、教勢を広めていく。現在の圓佛教教団の海外教化は、2011 年にアメリカのニューヨークに海外総部として「圓達磨センター（Won Dharma Center）⁶」が開院するなど、アメリカを中心に日本、フランス、中国、ドイツ、ロシアなど 20 カ国に、5 教区、50 余カ所の教堂、20 カ所の関連機関が設立されている。教化の教役者は 100 余名であるが、ニューヨークの圓光韓国学校、ハワイ国際訓練院、ロシアの韓国語学堂では、外国人や海外教徒に韓国の文化を知ってもらう機会を設けながら、圓佛教を広めるという方法をとっている。フィラデルフィアには米州禅学大学院大学が設立され、ここから国際的に活動する教役者を輩出している⁷。

圓佛教の国際的な布教活動⁸（圓佛教では「海外教化」ともいう）を概略すると日本→アメリカ→ヨーロッパ→中国の順に教化が進んでいる。初めて活動を展開したのは、1935 年に日本の大阪と満州の牧丹江における教化である。日本は 1 年、満州は 8 年で撤退する事態になる。植民地時代から解放され、6.25 朝鮮戦争が終わったあと、1959 年に圓光大学の学長である崇山宗師（朴光田 1915～1986、少太山大宗師の長男）が欧米と東南アジアを巡

訪することで国際教化の端緒が開かれた。圓光大学校には1957年に「海外布教研究所」が設けられており、これにより教化の支援が始まった。

本格的な国際教化は、1972年にアメリカに教務⁹を派遣して翌年ニューヨークで宗教法人登録を取得した後に展開する。1981年に圓佛教中央総部の教政院¹⁰に世界教化支援のための国際部が設立され、世界教化のための政策樹立、教書・教材の翻訳作業及び広報物の制作、国外教堂及び機関の設立、国際交流及び宗教連合運動推進など幅広い教化活動が行われている¹¹。教書の英文翻訳は、1971年に作業が始まり、主な經典の『正典』『大宗經』はむろん、宗師法語、教史、礼典、聖歌、教憲・規定までも出版されている。現在、『正典』は25ヶ国語、『大宗經』は9ヶ国語に翻訳され、また圓佛教についての案内本なども各国語に翻訳されている。

1999年に改定された教憲によって、従来の人間関係に依存する教化方法から政策的に外国の文化と環境に適応させ土着化が可能になるような本格的な国際教化を目指した。また国際的な教化者の専門的な養成のために2001年11月にフィラデルフィアに米州禅学大学院大学校が、アメリカのペンシルベニアの州政府教育部から正式認可を取得して開校した。現在の教政院の国際部は、教化と教堂の経済的自立が難しい海外教堂に経済力と教化が同時に相乗効果をもたらすために海外教化支援体系構築という重点政策を通して教化方法を模索している。

ここでは5つある海外教区の中で4つの教区を中心にまとめたのち、日本教区については2節、3節において少し詳しく言及する。

<米州東部教区・米州西部教区>

『圓佛教新聞』によると、米州教区の教化は1972年から始まり、現在40年を迎えている。米州教区は地理的な理由によって、1983年6月から東部教区と西部教区に分けて教化をすることになった。米州教区の主要機関としては圓佛教総部UN事務所(Won Buddhism United Nations Office、1995年設立)、米州禅学大学院大学校(Won Institute of Graduate Studies、2001年開校)がある。現在は2011年に開院した「圓達磨センター」が海外総部として位置づけられている。

米州の東部教区¹²には14ヶ所の教堂と訓練院や圓光福祉館、思想研究所などがあり、教役者は45名が活動している。ニューヨークには米州総部や訓練院とニューヨーク圓光韓国学校がある。西部教区¹³は、10つの教堂とハワイ国際訓練院に20名の教役者が常住している。

アメリカ大陸での教化活動の対象はアメリカに住む韓国人や在米同胞が中心であるが、ボストン、マンハッタン、マイアミ、ノースカロライナ、フィラデルフィア教堂などでは現地人による禅法会及びヨガ法会が肯定的な評価を受けている。現地人教化は主に東部教区を中心に行われている。現地人は圓佛教の教理に対する関心よりは禅に対する関心からの参加が多いため、禅の指導にも体系的な指導案が必要な状況である。

また韓国の文化を伝えるプログラムも並行している。法会後には韓国料理を一緒に作って食べる事や、地域別に毎年民俗行事の場を開いて在米同胞2・3世に韓国の文化を知ってもらえることを目的とした活動もしている。

『国際教化総覧92』によれば、圓佛教の実質的な海外布教は米州教化から始まる。米州

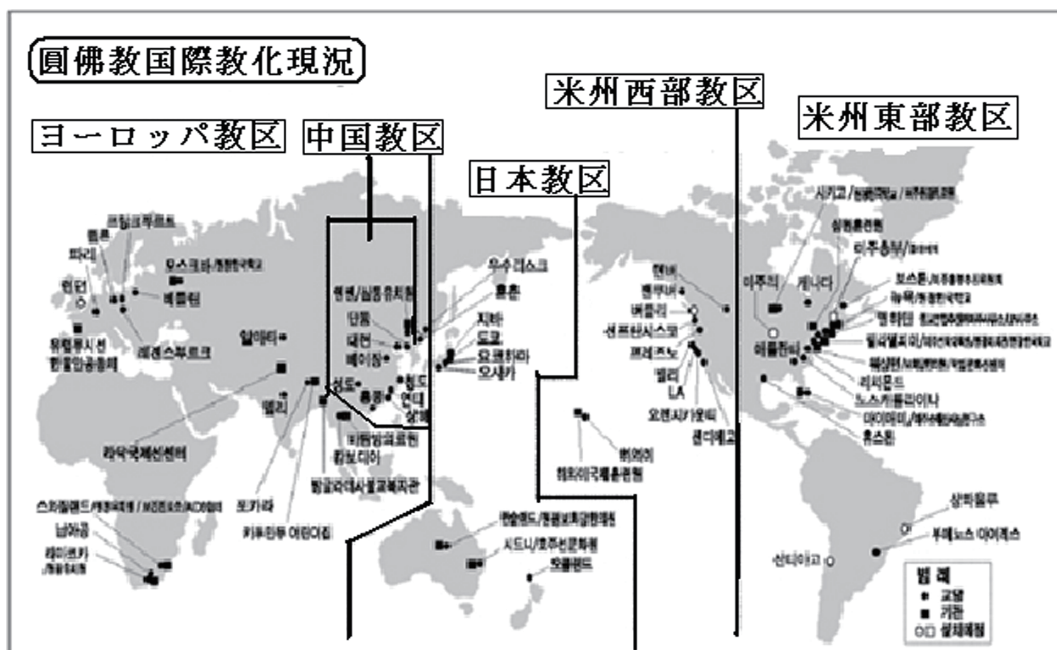
教化は3段階に分けられ、第1段階は、1956年の朴光田学長の欧米視察の前後に、円光大学の教授が世界各国の図書館、その他機関を通して個人団体の住所目録を作成し、書簡をやりとりし、文書を通しての交流から始まった。第2段階は、文書を通しての交流とともに、各種国際会議に教役者を参加させ、現地視察と長期滞在を通して圓佛教の理念を伝え、理解を深める作業を行ってきた。1960～80年代の初期の状況では活動上の制限も多く、短期間の滞在での教化は難しかったようである。第3段階は、教役者を現地に長期間滞在させることによって、同胞を対象に教化活動を行った。1973年にはLA教堂、1975年にニューヨーク教堂、シカゴ教堂、1977年にヒューストン教堂が宗教法人の認証を得た。

<ヨーロッパ教区>

ヨーロッパ教区¹⁴の始まりは、1989年3月にドイツのフランクフルトに教務を派遣し、同年ドイツ連邦政府より圓佛教社団法人の認可を得たことである。この教区はアフリカとインドまでを含んでおり、管轄する範囲が非常に広いため、教区の役割を果たすための地理的、環境的条件は容易ではなかった。14カ所の教堂があり、29名の教務が勤務している。ドイツとフランス、ロシアにある教堂では、同胞中心の教化から現地人中心の教化へと変化を模索中であるところもある。主に韓国語教育と韓国文化を紹介している。特にパリ教堂はヨーロッパ訓練院（ヨーロッパ無時禪ハンウルアン共同体¹⁵）を通してヨーロッパ人に教化を進めている。南アフリカ地域に所属されている教堂とカンボジア、ネパールでは、医療奉仕と保育園などの運営、住民の啓蒙を実践しながら教化活動をしている。特にネパールのポカラ教堂では、変化する時代の要請と市場性を考えて特殊実業専門学校の設立を通して教堂の法人確保と、教育インフラ構築を通して教化基盤の造成を目標にして準備している。モスクワ教堂とカンボジアのバットンバン教堂では現地人教徒による教典の翻訳も行われている。

<中国教区¹⁶>

中国への教化は、韓国が台湾との外交関係を断絶し、中国と外交関係を結ぶ1992年から始まる。中国の基本的な宗教政策は外来宗教と自国宗教を区分し、差別化している。1983年から本格的に適用された「三定政策」、すなわち指定された場所、指定された区域、指定された聖職者によって宗教活動ができるという規定によって家庭訪問教化などの自由な布教及び教化活動が制限されている。現在の中国教区には10カ所の教堂と12名の教務が駐在しているが、中国の教堂は日本教区に属していた。2001年9月、圓佛教首位団会で中国教区を新設することが決議された。中国が解放とともに東アジア中心文化圏として浮上している点などを考えて日本教区から中国教区として独立させたのである。中国の教化対象は、韓国人と留学生が中心である。圓佛教経典が中国語に翻訳されて各研究団体に普及しており、オンライン書店での販売も行われている。2011年2月には中国内で圓佛教が認可をもらうための準備作業を具体的に開始した¹⁷。



上記の図は『圓佛教新聞』1376号（2007年4月20日付）に掲載されている「圓佛教国際教化現況」である（<http://www.wonnews.co.kr/news/articleView.html?idxno=58608>）。

上記の図からは教堂・機関の名前や数が分かりづらいため、以下の表にまとめた。なお各国教堂の写真、住所、連絡先、位置などが分かる最新の地図は圓佛教のホームページに掲載されている（<http://www.wonbuddhism.org/temples?category=0>、2012年7月30日閲覧）。

表1 圓佛教教団の5つの教区

教区	布教開始	教堂	関連機関	設置予定地
米州東部教区	1972年。	14	7（学校系・研究所・訓練院）	4（サンパウロ・サンティアゴなど）
米州西部教区	1983年に 東部西部分け	10	0	1（パークレー）
ヨーロッパ教区	1989年	14	7（学校・保健所など）	1（ロンドン）
日本教区	1935年	7	2（漢医院・禅文化院）	0
中国教区	1992年	10	1（幼稚園）	0

以上、簡略に各教区についての歴史と現況についてまとめたが、圓佛教教政院では2008年10月に、海外教区に「地区制度」を導入した。5つの教区の中、米州東部教区、ヨーロッパ教区、日本教区に地区を作った。地区制度を導入したのは、教区が管轄しづらい地域を地区としてまとめ、今までの距離・文化圏の差異による問題点を解消するためである¹⁸。

教区に地区を設けて、より良い教堂運営を目指したが、2012年4月の記事によると、現在5つの教区で区分されている海外教区を大陸別、国家別にして政策的に海外教化を推進していく方針であるという。5つの教区に南米教区、アフリカ教区、アジア教区、オセアニア

教区を加えて9つの教区に編成されることになる¹⁹。しかし、2012年9月時点では、圓佛教ホームページ上の概要のサイトに9つの教区になったことに関する情報更新はされていない。

表2 新設地区から昇格した教区

教区	新設地区 (⇒教区)	所属教堂・機関
米州東部	南米地区 ⇒南米教区	ブエノスアイレス教堂 (アルヘンティナ)、サンファウロ教堂 (ブラジル)、サンティア教堂 (チリ)
ヨーロッパ	アフリカ地区 ⇒アフリカ教区	南アフリカ教堂、ラマコカ教堂、スワジランド圓光幼稚園・保健診療所
	インド地区 ⇒アジア教区	ボカラ教堂、バットンバン教堂、デリー教堂、ラダク国際禅センター
日本	オセアニア地区 ⇒オセアニア教区	シドニー教堂、クイーンズランド教堂、オークランド教堂、濠州圓光漢医院、圓佛教濠州禅文化院

2. 日本布教の歴史

圓佛教の海外への布教は日本が最初であった。1930年代から日本への布教が始まったが、今日に至るまでの活動を準備期、始動期、展開期の3段階に分けて、それぞれの段階における動きを簡単にまとめる。

(1) 準備期

準備期は1930年代から1970年代までで、大阪が中心である。日本への布教は早い時期から始まっているが、植民地時代からの解放、韓国戦争を経て60年代後半から教化のための活動が始まる。

1931年当時、「仏法研究会」の第2代会長であった曹頌廣（法名：慶山）氏が大阪に引越すことから始まる。1935年には教務を派遣し、大阪教堂の活動が始まるが、植民地支配下での活動は難しく、弾圧により1年で撤収する。日本での布教活動が再開するのは1966年で、教化をしていくための状況を把握しようと、教務の派遣も行っている。1975年には教典の日本語版が刊行された。1977年2月には日本人のO氏が圓佛教の総部を訪問、入教する。その際、教堂の設立を約束し、日本教区事務長に任命される。同年6月には大阪市西淀川区千舟（看板「圓佛教日本教区」）に初めての教堂ができた（大阪教堂とも呼ばれる）。この時に圓佛教教化のために土地3万坪を購入する予定で、韓国人公園墓地、養老・療養施設、子どもの遊び場などを施設し、収益とともに教化の基盤を作ろうとする計画があったようだが、実現には至らなかった。O氏は教区事務長として日本教化に励み、日本教区の教徒5名とともに1978年5月には韓国の総部を訪問するなど活動をしている。また同年10月には圓佛教講座²⁰が開催され、日本現地人のために日本語で進行されるなど、圓佛教について分かってもらうことを目的とした活動を展開している²¹。1979年には岡山教堂を設立するなどして、活動を広げた。

(2) 始動期

始動期は1980年代から1990年代とする。この時期には日本での宗教法人の認証も得て、関西地域のみならず、関東にも教堂が設立され、日本人の教徒も増えつつあった。

関西地域の大阪から始まった教化活動は、1980年2月には宗教法人の認証（岡山県で宗教法人認証）を取った。同年、奈良教堂と岐阜教堂、1981年には福岡教堂、91年には京都教堂も設置されて活動をするが、教堂の維持ができず、閉鎖や撤収をすることになる²²。関西地域の教堂は結果的に大阪教堂のみが活動をしている状況である。

関東地域に関東教堂（現在、横浜教堂であるため、以下横浜教堂と明記）ができ、教化を着手したのは1987年である。同年2月に教区長、教務、日本教化推進委員長らが横浜市金沢に到着し、知り合い所有のマンションに無料で住むことになった。簡単な仏壇をつくって法身仏を祀り、同年3月には各界の来賓を含む36名が参加した奉仏式²³が行われ、横浜教堂が活動を開始した。日本教化は首都の東京を中心とする関東地区と、大阪を中心とする関西地区に分け、活動の活性化が目指された²⁴。

横浜教堂では1987年10月から「ハングル教室」が開設され、横浜市近辺の韓国人在日同胞と日本人を対象に教務が無料でハングルを教えるようになった。「ハングル教室」の新聞広告を見て18名が参加した。8ヵ月間、毎週土曜日あるいは木曜日の午後2時から4時までハングル勉強をし、キムチ作りなどを通して韓国文化も伝える活動も行った²⁵。横浜教堂は韓国の中央総部の支援と教徒の協力で1989年8月に現在の建物を購入し、12月に法堂増築工事が終わった。そして翌1990年4月に現地人20名をはじめ70名が参加して奉仏式が行われた。この時点では70名が入教しており、日曜法会では第1週目は韓国人法会、第2週目は東京出張法会、第3週目は日本人法会、第4週目は殉教法会を実施していた。横浜教堂は1993年に神奈川県で宗教法人の認証を得て、現在に至っている。

千葉教堂は1991年から法人認証のための活動をし、93年に宗教法人の認証を得て設立された。95年1月に日本人2名と韓国入教教徒、留学生など20名が参加して初めての法会を開いていたが、関東地域の教化活性化を図るという考えから、法会運営を変える必要があった。2ヶ所の教堂で毎週行われた法会を、第1、3日曜日は横浜教堂、第2日曜日は東京開拓地、第4日曜日は千葉教堂で法会を開催することになった²⁶。

1995年7月には東京の新宿に圓佛教東京会館が完成された。日本へ出張、研修、観光、留学などで来日する教徒のための宿泊施設である。この会館は1992年に入教した日本人H氏が、東京の土地35坪を提供、建築基金の銀行保証貸出などにより完成したものである。同氏は日本人としては初めて1995年2月に家に法身仏を奉安した。東京会館の経営権限は20年間とされている²⁷。新聞にはこのような記事があり、一時期運営されたと思われるが、現在はその存在を確認することはできない。

1996年には千葉の市川宣教所と東京の錦糸町教堂が設立され、活動を開始する。市川宣教所の活動は微々たるものであったが、錦糸町教堂はマンションの一室を借りて毎週法会を開くなど教化活動を行っていった。

(3) 展開期

展開期は2000年以降になる。2006年に東京教堂が設立され、日本教区庁となることによって、それまでと比べて比較的安定した教化活動ができる環境が整えられた。

日本教化が活性化したのは、関東教堂である。関東教堂は2001年に「横浜教堂」と改名し、2006年の東京教堂ができるまで日本教区庁としての役割を果たしていた。横浜教堂では2002年12月に40名が参加して名節大斎²⁸と会長団指令状授与式が行われ²⁹、法会に参加する教徒による教堂の運営ができるほど安定していた。

2004年4月に中央総部で行われた大覚開教節記念式で日本人のK理事長（宗教法人圓佛教岡山）が特別法号をもらっている。1995年に中央総部を訪問し、教政院長のヨンウォン（淵源³⁰）によって入教したK氏は、東京に4階建物を喜捨し、錦糸町教堂の教化活動費と生活費を負担していた。この建物をリーモデリングして日本教区庁兼東京教堂として使用する予定となり、横浜から東京へと教堂の中心が変わることになった。2004年時点で4つの宗教法人（岡山、大阪、神奈川、千葉）があり、5つの教堂（大阪、横浜、千葉、市川、錦糸町）がある³¹。

2006年6月6日、日本教区兼東京教堂の法仏式が行われ、日本教区教徒と韓国内出家・在家教徒、来賓を含む100名が参加した。東京教堂が発足することで錦糸町教堂は統合という形となり、2006年の時点で日本教区は4つの宗教法人と4つの教堂（大阪、横浜、千葉、東京）とまとまった³²。

横浜教堂では、2012年1月に圓佛教儀礼による日本人の入廟式が行われた。横浜市民墓地に一圓相のシンボルと礼文が日本語で書かれている黒い幕をお墓の後ろ側に設置して挙行された。日本人の夫の入廟式は遺族のみが参加する家族葬で、進行は日本語で行われた。現在、涅槃人の薦度齋が行われる³³など、少しずつではあるが、日本での圓佛教の活動、教化が定着しつつあることがわかる。

なお圓佛教の韓国教徒からの支援によって、東日本大震災後、被災地救援のための活動を行っている。日本教区の教務とともに2011年6月3日に岩手県大船渡市の被害村で津波被害霊魂のための慰霊祭を行ったほか、圓佛教災害災難救護隊が2011年6月29日～7月1日まで第3次救護活動を岩手県宮古市で行った。宮古市水産高体育館で被害を受けた学生や住民のために慰問公演をし、救護物品を渡した。この公演では日本で有名なギタリストの寺内タケシと公演団が特別演奏をした。高校生2,000名、村の住民1,000名とともにしたこの公演に地域住民と学生たちは韓国から慰労と物品を渡すために宮古市と学校に訪問したことに感謝の意を伝えた³⁴。こうした救援活動は日本に教堂があり、日本での活動の拠点があることで、容易になったと考えられる。

3. 日本教区の現況

以上のように日本教化の過程、活動などから見てわかるように、現在日本教区には4つの教堂があるが、現在活動していると言えるのは3つの教堂である。筆者が圓佛教の日本教堂の面談調査を開始したのは2005年である。以下ではそれ以後現在に至るまで知り得た情報を中心に現況をまとめる。

最も多くの面談調査を行ったのは東京教堂である。現在まで数十回、法会や行事に参加した。東京教堂の前身である錦糸町教堂での法会にも2回ほど参加した。2005年4月24日が錦糸町教堂で行われる最後の法会であった。当時はマンションの一室に法身仏一圓相が祀っており、教務が常住していた。日曜日11時から始まった法会は、4月28日の大覚開教節³⁵に近い日曜日であった。

法会の式次第は次のとおりであった。

- ① 法身仏である一圓相と大宗師（写真が掛ってある）に向かって4回クンチョル（土座のような姿勢）をする。
- ② 背筋を伸ばしてアグラをかき、座禅を10分ほどくむ。
- ③ 「読経集」の中の「一圓相誓願文」を全員で読経。
- ④ 圓佛教全書の中の「四要」を全員で読む。
- ⑤ （今回の法会は「大覚開教節」であったため）宗法師の法文である「自力と他力」についての10個の項目を全員で読み、教務がその意味について説明する。
- ⑥ 最後に「読経集」の中の「日常修行一要法」を全員で読む。お辞儀をして終わる。

錦糸町教会での法会はこれが最後で、以後は「金町」に新たな建物に「韓国文化センター」を重ねた日本教区庁兼「圓佛教東京教会」が設立されることが、教務から伝えられた。法会が終わるとみんなで昼食を作って食べるが、筆者を含め参加者は8人であった。錦糸町教会の日本人初の教徒であるMさんを含め、韓国語を勉強する日本人2人、留学生が4人、社会人1人。参加者のほとんどが留学生であるため、布施はほとんど無い状況であったが、新しい教会へ移転してからは教会の経済力をつけるための事業などを考えていかなければいけないことを教務が語った。例えば韓国料理を売るなどの案も示された。

日本教区庁である東京教会³⁶には、2005年末に教会が完成して正式に法仏式が行われる前までの期間の法会に数度参加し、2006年6月の法仏式にも参加した。新しい教会は延建坪184坪、4階建物で、1階は「韓国文化センター」、2階は法堂、3～4階は生活館として利用している。

錦糸町教会から東京教会へ移転するまで務めていた教務が韓国へ移動になり、新しい教務が2006年から常住することとなり、日本教区長も新たに任命された。現在まで数人の教務が東京教会で務めているが、2人の教務が常住する時期もあった。東京教会は経済的に自立した運営には至っておらず、教務の交代も多く、教徒の数もあまり安定していない。2012年に就任した現在の教務は日本教区長を兼ねている。活動の中心的なものは、第2、4日曜日の11時から始まる法会である。東京教会の法会の参加者は、錦糸町教会の時と同様に留学生が主で、通常5、6名が参加する。留学生の数が法会の参加者数に深く関係していて、それが東京教会の特徴とも言える。1階の「韓国文化センター」では週2回くらい韓国語講座が開かれており、日本人が圓佛教を接する機会はあるものの、圓佛教に入教するまでには至らないようである。3、4階の生活館には留学生などに部屋を貸している。

横浜教会³⁷は、東京教会が設立される前までは関東地域教会の中心とも言える教会であった。横浜教会には2005年末に錦糸町教会の法会参加者とともに訪問した。当時は、参加人数が錦糸町教会より2倍ほど多く、教徒の年齢層も高かった。在日同胞2世の人や日本人と結婚して帰化した韓国人、その家族が中心であった。法会の順などは錦糸町教会と同様な傾向であったが、韓国語教室やヨガ教室、座禅などの訓練プログラムも行っているということから、当時までは横浜教会が関東地域の中心的教会で活発な活動をしていたと言える。

2012年6月に東京教会の法会に参加した際に、横浜教会に訪問した時に会ったことのある教徒が法会に参加していたため、横浜教会の現況について面談調査を行った。現在横浜教会には法会参加人数が日本人1人を含む2、3名ほどであると。法会参加者の減少の主たる理由として、次のような点を挙げた。

- ① 東京教堂が設立されてからは横浜まで足を運ばない人が多くなった。
- ② 留学生や駐在していた韓国人が韓国に帰ってしまった。
- ③ 円高によって留学生があまり来なくなった。

これらの理由など、教徒の動きによって教堂の運営は大きく左右される。

大阪教堂³⁸には2012年2月に訪問した。住宅地の中に位置し、1階の入り口には金色の丸い一圓相のシンボルが目立つ3階建ての建物である。それほど広いスペースではないが、1階が法堂で、2、3階が生活館になっている。2階は主に教務の住居スペースで部屋が一室と台所と風呂という間取りで、3階が留学生の住まいである³⁹。法会には参加できなかったが、教務への面談調査を行った。

大阪教堂は1989年に設立された。3階建ての建物はそう広くはないが、教団からの支援によって購入されたものである。1990年4月に奉仏式が行われ、1997年12月に宗教法人登記が認証された。1999年から現在の教務が大阪教堂に常住することになり、現在に至っている。教務は一人で教堂を管理・運営している。教徒数は18名（男8、女10）で、年齢はほとんどが50代である。法会の進行を担当するほど熱心に参加する教徒もいるが、その教徒一家は韓国に帰国することになり、教徒数は減る予定であるという。法会は毎週日曜日11時からで、毎回の法会に参加する人数は10名以内。東京教堂は2週間に一回の頻度で法会を行っているが、大阪教堂は毎週法会を行っていることから、東京教堂に比べて熱心な教化活動をしていると言える。

大阪教堂の社会活動、布教活動においても、関東地域の教堂と比べると特徴が見られる。毎週の法会を通しての教理勉強はむろん、活動の期間が長い分、これまでさまざまな試行錯誤を経て定着した活動がある。主に4つ紹介する。①年1回に「圓コリアフェスティバル」を開き、周辺の朝鮮学校および日本の小学校などで韓国の民俗遊びを指導している。②文化教室を開いて日本人に韓国語を、留学生に日本語を教え、お正月やお盆などの名節にはソンピョン（お餅）作りなどを通じて韓国文化を紹介する。③漢方無料診療は、2001年から2010年まで10年間行われた活動である。圓光大学校漢医科大学院の海外医療奉仕隊の協力により毎年夏に3日間コリアタウンで実施された。大阪教堂は狭いので、近くのお寺やコリアンタウン会館などを借りて在日同胞や日本人を対象に無料診療を行ってきた。10年間にわたるこの活動が終了したことを惜しむ声が多いという。④大阪教堂の教徒を中心に韓国へのテーマ旅行なども企画し、圓佛教中央総部、聖地巡礼なども年1回ほど行っている。

現在の教務が大阪教堂に就任した後、行ってきたさまざまな活動が写真集に納められていて、今までの活動の規模や雰囲気が確認できる。このような社会・教化活動が可能であった理由は、在日同胞が密集して住んでいる生野区のコリアンタウンであるという立地条件と、漢方無料診療などは圓佛教教団側の支援が大きいと考えられる。また、現教務の地道な努力も理由としてあげられる。現教務が大阪教堂に就任して間もない頃に、法会にあまり参加できない韓国人留学生の教徒や、圓佛教に入教はしていないが、かつて法会に参加した事のある人には「圓佛教新聞」や毎週手作りする教堂会報などを郵送して、圓佛教の情報を知らせたという。これによってその人達とのつながりが保たれ、場合によっては入教するまでに導くケースもあったという。

まとめ

圓佛教の海外布教は多くの国、地域で広まっているが、教堂が経済的に自力で運営できているのはアメリカ地域のみで、ほかの地域はまだ韓国の教団側からの支援を必要としている状況である。日本教区は始動期の1980年代から数えると30年以上が経過しているが、あまり活発な教化活動を行っているとは言い難い。数年にわたり調査してきた3ヵ所の教堂の場合も、まだ自力での教堂運営は難しい状況である。関西に多数の教堂が設立されたが、現在残っているのは大阪教堂のみで、関東には日本教区庁兼東京教堂が設立されて活発な教化活動が期待されたが、安定した教勢力を持つことまでには至っていない。一定の時期、関東地域で安定した教堂運営を見せていた横浜教堂も新しい教徒を増やすことができず、千葉教堂も現在は教堂としての機能が欠けていると言える。歴代の教務などによってそれぞれ多様な試みがなされてきたと思われるが、全体として信者数はあまり増えていない。

圓佛教は韓国の宗教団体の中でもそれほど大きな教団というわけではない。したがって、海外布教地の一つである日本において、活動が大規模なものにならないのは、当然という考え方もあるかもしれない。日本にいる教徒自体もきわめて少数である。しかし、アメリカやヨーロッパにおいてはある程度教勢が増加しているという例があることを考えると、なぜ日本では教勢がそれほど伸びないのかについて、若干の宗教社会学的な考察を加えてみることも必要になるだろう。

第一に考えられるのは、日本はアメリカやヨーロッパと異なり、仏教的な宗教団体の活動は珍しいものではないということである。欧米では、圓佛教の教理に対する関心よりも禅に対する関心からの参加が多いことを述べたが、日本では韓国から紹介されるまでもなく禅宗は日本仏教の柱の一つになっている。少なくとも圓佛教の禅の実践に関わる部分は、日本ではその意義が見出されにくいかもしれない。さらに禅系の新宗教教団は日本では形成されていない。この点では圓佛教の禅的な要素に対する関心は、日本では高まりにくいと考えられる。

第二に、新宗教としての圓佛教という側面を考えた場合、日本には数多くの仏教系新宗教があり、仏教と関係したさまざまな活動や教えが展開されている。したがって、圓佛教が日本人の信者を得ようとしたときに、それらに関して特徴的な意義を示すのがなかなか困難になる。欧米にも新宗教はあるが、ほとんどはキリスト教系新宗教である。そこでは圓佛教は仏教系新宗教としての特徴を欧米の人に示しうる。しかし日本の新宗教には多くの仏教系教団がある。そして多くの場合が先祖供養と深く結びついて展開している。とくに霊友会系の教団はそうである。この点については妙智會教団についても同時に研究しているが⁴⁰、現代においても、やはり先祖祭祀は日本の新宗教においては重要な意義をもつことを確認できる。圓佛教にも先祖供養の要素はあるが、霊友会系の教団は、それを日本的に広く浸透させているので、あらたに圓佛教の先祖供養を説いていくのは、これもかなり困難と考えられる。

第一と第二の点は、数多くの仏教宗派があり、また仏教系新宗教がある日本においては、欧米と比べたとき、圓佛教の特徴的な要素が独自性を示しにくいということを指摘することになる。

第三に韓国の新宗教の海外布教の歴史がまだ短いことも付け加えておきたい。新宗教は日本では近代以来数多く形成され、社会的にも大きな影響力をもつようになった。そして戦前から海外布教を行っている。韓国では戦後キリスト教の影響が大きくなり、新宗教の社会的

な影響力は全体として日本よりもかなり小さい。海外布教も、比較的最近本格化したと言える。韓国の新宗教の国外での活動は日本の新宗教よりも歴史が浅いので、圓佛教の場合も、欧米での布教と日本での布教の違いの比較などはこれからの課題である。

圓佛教の日本における活動の特徴を分析し、またさほど信者が増えていない理由を検討する上では、本稿で紹介した具体的な活動の分析を重ねていくとともに、他方では最後に列挙したような、マクロな社会学的な見方も加えて検討していく必要がある。

注

- 1) 圓佛教ホームページ「圓佛教紹介」の「世界の中の圓佛教」(http://www.won.or.kr/mbs/won/subview.jsp?id=won_010700000000)。
- 2) 李和珍「圓佛教の現況と研究の動向—宗教社会学的視点から—」『国学院大学開発推進機構日本文化研究所年報』第4号、2011年、p.73～86。このファイルは現在の圓佛教 Web サイトが更新されたため見ることができない。
- 3) <http://www.won100.org/>
- 4) 『圓佛教新聞』は1966(圓紀51)年創刊の『圓佛教青年会報』が前身である。1968年に『圓佛教新聞』創刊を決意し、1969年6月1日付に文公部の認可を得て発行された。現在は週刊で2008年6月からはホームページで全面閲覧可能となった。<http://www.wonnews.co.kr/>のホームページへのアクセスにはウェブ会員登録が必要である。
- 5) 2009年に海外教化68年間を2冊にまとめたもので、第1巻は海外教化活動および教堂・機関の沿革を1部、2部に分けている。1部は海外教化政策および歴史—国際部門別沿革および活動現況、2部は海外教堂および活動現況。第2巻は海外教化および政策に関する内容で、海外教化に関する研究・発表資料などが集録されている。
- 6) Won Dharma Center (www.wondharmacenter.org) は2011年10月2日開院し、51万m²の宗教敷地の認可を得て2970m²規模の親環境建築物5棟(信仰・修行共同体、宗教共同体、人材養成、宗教連合運動建設、ホールとゲストハウス)が配置されている。グローバル時代に合う体制と制度の革新、欧米社会に合う新しい教化方式と宗教生活などを運営することで、圓佛教の世界化のための基地としての国外総部として活用する(コ・シヨン「圓佛教教化の様相と方式」『宗教教育研究』2011年、p.153～173)。
- 7) 圓佛教ホームページ「圓佛教紹介」の「世界の中の圓佛教」(http://www.won.or.kr/mbs/won/subview.jsp?id=won_010700000000)。
- 8) 圓佛教の国際教化現況に関する概要においては、『圓佛教新聞』1221号(2003年12月5日付)と1376号(2007年4月20日付)を主に参考にしている。
- 9) 圓佛教の出家教役者の一般的名称。教化の使命を持って教堂や機関などに派遣され、奉職する出家教役者。圓佛教用語辞典(<http://www.won.or.kr/mbs/won/jsp/dictionary/dictionary.jsp>)。
- 10) 教団行政の中央執行機関。教団の初期頃は、庶政院があり二つの執行機関であったが、1948年に圓佛教教憲制定の際に中央執行機関として「教政院」、中央監察機関「觀察院」の両院体制になった。圓佛教用語辞典(<http://www.won.or.kr/mbs/won/jsp/dictionary/dictionary.jsp>)。
- 11) バク・ヘフン「世界化時代の圓佛教世界教化方向—圓佛教100年記念聖業を中心に—」『新宗教研究』第25輯、2011年、p.61～83。
- 12) 『国際教化総覧92』第1巻によると東部教区は、ニューヨーク教堂(圓光韓国学校、心元訓練院)、シカゴ教堂、フィラデルフィア教堂、ワシントン教堂(圓光韓国学校、文化禪センター、ボファタン漢医院)、マンハタン教堂、カナダ教堂、マイアミ教堂、アトランタ教堂、ヒューストン教堂、プエノスアイレス教堂、リッチモンド教堂、ノースカロライナ教堂、サンティアゴ教堂、心元訓練院、圓光福祉館(ニューヨーク)、圓光福祉(フィラデルフィア)、米州少太山思想研究所がある。

- 13) 『国際教化総覧 92』第1巻によると西部教区には、ロサンゼルス教堂、ハワイ教堂サンフランシスコ教堂、バレー教堂、オレンジカウティカウティ教堂、サンディエゴ教堂、フレズノ教堂、コロラド教堂、パークリー教堂、バンクーバー教堂、ハワイ国際訓練院がある。
- 14) 『国際教化総覧 92』第1巻によるとヨーロッパ教区には、フランクフルト教堂、ベルリン教堂、レーゲンスブルク教堂、モスクワ教堂（圓光韓国学校）、パリ教堂、アルマタアルマティ教堂、南アフリカ教堂（アフリカ子どもを支援する集い）、スワジランド教堂（圓光幼稚園、保健診療所、アフリカ子どもを支援する集い）、ラマコカ教堂（圓光幼稚園）、ウスリースク教堂、ボカラ教堂（カトマンズ子供の家）、バタンバン教堂、デリー教堂、ケレン教堂、ヨーロッパ無時禪ハンウルアン共同体、ラダク国際禪センター、圓佛教-NOW コミュニティーセンターがある。
- 15) 「ハンウルアン共同体」とは、ヨーロッパ人全体に圓佛教の教法を伝えるために開設されたもので、命名の際に4代の左山宗法師がいつでもどこでも誰でも禪を実践するという意味の「無時禪」を必ず入れるようにと話したことから「ヨーロッパ無時禪ハンウルアン共同体」と名付けられた（『国際教化総覧 92』第1巻）。圓佛教には「ハンウルアン運動」というのがあり、これは圓佛教女性会創立5周年を記念して提唱された。「ハンウルアン」とはみんなが一つの輪の中に住む家族という意味で、宗教が異なってもお互いの宗教を認め、共同禪を実践する信仰生活をし、平和と平等、和解と相生の世界を目指す。主要事業の一つである人類共同禪実践のための宗教連合運動で「ヨーロッパ無時禪ハンウルアン共同体」の設立に支援した（<http://hanuran.or.kr/introduce/work.html> 社団法人ハンウルアン運動）。
- 16) 『国際教化総覧 92』第1巻によると、北京教堂、上海教堂、延辺教堂、琿春教堂、丹東教堂、青島教堂、香港教堂、成都教堂、烟台教堂、延辺三同幼稚園がある。
- 17) 『圓佛教新聞』1601号（2012年2月3日付）。『圓佛教新聞』1559号（2011年3月11日付）。
- 18) 『圓佛教新聞』1447号（2008年10月24日付）。
- 19) 『圓佛教新聞』1610号（2012年4月13日付）。
- 20) その講座では圓佛教の特徴を次のように紹介している。①信仰の対象を一圓相として概念化することで象徴哲学を提起した、②恩を存在論的に把握してその生命力を宇宙の機運としてみることで四恩を信仰の本質として表した、③宗教を通してすべての教えが人間化作業に戻ってくるために訓練法を提起した、④福祉社会に向けての実践が教団の使命であることを強調した。また、「現実に満足しよう」というテーマで、圓佛教は宗派ではなく仏教の宗派が分かれる前の宗教であり、実践の宗教であるため圓佛教を信仰することで明るい生活ができ、現実に満足できると説いている。
- 21) 『圓佛教新聞』199号（1977年11月25日付）、211号（1978年5月25日付）、220号（1978年10月25日付）。
- 22) 『圓佛教新聞』256号（1980年5月25日付）、258号（1980年6月25日付）、595号（1990年4月20日付）、654号（1991年7月26日付）。
- 23) 法身仏一圓相を奉安すること。
圓佛教用語辞典（<http://www.won.or.kr/mbs/won/jsp/dictionary/dictionary.jsp>）。
- 24) 『圓佛教新聞』483号（1987年4月6日付）、515号（1988年3月26日付）。
- 25) 『圓佛教新聞』532号（1988年9月16日付）。
- 26) 『圓佛教新聞』818号（1995年2月10日付）。
- 27) 『圓佛教新聞』869号（1996年3月15日付）。
- 28) 「名節大斎」は12月1日に行われるもの。大斎は一年に2回行われ、少太山大宗師をはじめ圓佛教の全ての先祖と聖賢及び一切生霊を追慕して合同饗礼をあげること。
圓佛教用語辞典（<http://www.won.or.kr/mbs/won/jsp/dictionary/dictionary.jsp>）。
- 29) 『圓佛教新聞』1177号（2002年12月27日付）。
- 30) 圓佛教に初めて入教する際に、導いてくれた人を「ヨンウォン（淵源）」という。入教の根源になる人を入教淵源、出家修行の道へ導いてくれた人を出家淵源、成仏の道へ導いてくれた人を成仏淵源という。

圓佛教用語辞典 (<http://www.won.or.kr/mbs/won/jsp/dictionary/dictionary.jsp>)。

- 31) 『圓佛教新聞』1241号 (2004年5月7日付)。
- 32) 『圓佛教新聞』1337号 (2006年6月16日付)。
- 33) 『圓佛教新聞』1600号 (2012年1月20日付)
- 34) 『圓佛教新聞』1575号 (2011年7月8日付)。
- 35) 少太山大宗師が一圓の真理を悟り、圓佛教を創立した日で毎年4月28日に慶祝する。
圓佛教用語辞典 (<http://www.won.or.kr/mbs/won/jsp/dictionary/dictionary.jsp>)。
- 36) 〒125-0042 東京都葛飾区金町5-1-15
圓マウル (<http://www2.won.or.kr/wonmaeul/club/0001111/index.html>)。
- 37) 〒221-0852 神奈川県横浜市神奈川区三ツ沢下町25-15
- 38) 〒544-0002 大阪府大阪市生野区小路3-9-13
- 39) ただ外階段を通して2、3階に上がれないといけない構造で、法堂と生活スペースとの分離という面ではいいが、法会が終了した後の食事の準備などには不便な造りの建物であった。
- 40) 拙稿「グローバル化時代の到来と新宗教の展開—妙智會教団の事例—」駒沢宗教学研究会『宗教学論集』第27輯、2008年、「新宗教の先祖祭祀の日韓比較—妙智會教団と圓佛教の事例を中心に—」『國學院大學研究開発推進機構紀要』第2号、2010年を参照。